

21年の夏はこう過ごそう

茗溪塾塾長 長谷 誠基

6月20日は小6の合同特訓、27日は高2・3の合同特訓が行われました。小6の四谷大塚中学受験コースでは、国語力を伸ばす鍵となる教材の「国語実戦」が、公立一貫校受験コースでは適性検査必出の「資料読み取り100選」が開始されました。どちらも入試に直結する内容のもので、簡単ではないのですが、特訓から少し経った今でも頑張っている様子が見られています。高2・3の合同特訓では共通テストの問題や志望校の問題に挑戦し、集中して解いていました。

しかし、大事なのはここからです。何事も継続することが重要で簡単にはできないものです。途中でなかなか進まないところが出てくるかも知れませんが、あきらめずに続けることで突破口が見えてきます。正に「継続は力なり」です。

さて、今年も受験生にとって重要な夏が近づいてきました。今年は昨年とは違って、休校の影響はほぼなく、夏期講習も例年通りできそうです。前号では見通しを立てることの必要性を書きましたが、今月はもう少し具体的なことを考えてみましょう。まず、受験生ですが夏の過ごし方は3つの視点を持って考えてみましょう。1つ目は「教科内容全体の総復習」です。今までに学習した内容全体を振り返ることができるのは、まとまった時間がある夏休みくらいしかありません。ここで全体を総復習し、自分が良く分かっていない単元を洗い出すことが必要です。2つ目に「弱点補強」です。全体の総復習をして見つかった弱点や理解不足の単元をもう一度学習し直し、身につけてほしいと思います。これをやっておかないと、いざ入試問題に取り組んだときにわからないことが多すぎて、やり直しに余計な時間がかかり非常に効率が悪くなります。これは夏だけでは終わらないかもしれませんが、見つかった弱点をピックアップし、1つずつつぶしていきましょう。そして、3つ目は入試レベルの問題に取り組むことです。普段自分で学習している問題と入試問題では、レベル差があるのは間違いありません。ですから塾の夏期講習の授業では、少しずつ入試レベルの問題に取り組むのです。ここで先生と一緒に解くことで、入試問題へのアプローチの仕方を学ぶことができます。これをやらずに秋いきなり入試問題に取り組むと、やり方が全然浮かばないということになってしまいます。3つ目の点については自分でやるのはとても大変ですので、塾を利用するのが最善です。

受験生以外の学年もこの夏は色々なことにチャレンジするチャンスです。次の英検に向けて勉強を始めたり、苦手な単元の復習に取り組んだりできることはたくさんあります。必ず目的を持って臨む夏にしてほしいと思います。